



令和7年5月28日

1 部会



◎顧問校長講話 西部中学校 鵜飼和生校長

事務職員に期待することとして、「自信を持って堂々と」「コミュニケーションを積極的に」とお話いただきました。職員間の信頼関係を築くためのポイントについて、A1から得た情報を交えて御紹介いただきました。



◎事務センター所長講話 南部中学校 山崎孝依主幹

仕事をする上での正義とは？の問いかけから始まり、こだわりやぶれないことを自分の正義とすること、自分の仕事や研修が「学校事務職員育成指標」「はままつ学校事務グランドデザイン」のどこに当てはまるのかを意識することで、目指す事務職員に向かっていくことをお話しいただきました。

◎グループ協議「研究の重点について」

今年度、研究の重点である「伝える力」と「絆で変化に対応する」をテーマに、実践例や課題等を協議しました。各グループの意見発表では、伝え方の工夫や課題解決へのアプローチ方法など情報共有がなされました。T-portへの対応の在り方についても意見が交わされ、情報交換の必要性を感じました。



2 部会



◎顧問校長講話 葵が丘小学校 小山貴広校長

校長先生ご自身の多様な勤務歴の経験に即して、学校長の立場からの学校事務職員の理想の姿について、講話をいただきました。

講話の中で、学校事務職員は学校で唯一の行政職員であるため、教員とは違う角度から専門的な知識を生かし、学校では当たり前となっていることでもそれに対して意見を言える存在であってほしいこと、学校の第一の窓口であるため、朝の校長室での打ち合わせに入り、学校内の様々な情報を得た上で業務にあたることを望んでいるということでした。



また、いかに管理職との信頼を築くかが重要であり、教頭先生とは特によく相談し、業務の住み分けをきちんとしていける関係性を築くこと、校長先生にも意見をしっかりと伝えることができるのが学校事務職員であるということも、お話いただきました。

学校事務職員は学校の要であり、全体のバランスを取りながら学校運営への参画をしてほしい、を結びとされ、校長先生が学校事務職員を学校の中でいかに重要な立場として考えてくださっているのか、講話を通じて強く感じました。

◎ グループ協議（T-port・事務改善について）

まず、アイスブレイクでクイズ形式の自己紹介を行った後、T-port についてグループ協議を行いました。疑問や課題に思うことをピンクの付箋、それに対する自身が知っている解決方法等は水色の付箋に書き、模造紙に貼ることでそれらを共有しながら協議を行いました。協議を行う中で、T-port を触り、慣れていくことで様々な機能を発見でき、使いこなせるようになることや、時代に合わせたやり方をしていくことがこれからの情報化社会で重要になってくるのだと感じました。



次に、『今年度やってみたい事務改善』についてグループ内で発表・意見交換をしました。運転前のアルコールチェックの確認方法や表の管理方法、T-port での長期休業中の文書受付の方法、減額徴収の実施など、様々な事務改善に取り組みたいという、皆さんの意欲を感じるグループ協議となりました。

3 部会



◎顧問校長講話 東部中学校 大城定則校長

事務職員に求めることについてお話をいただきました。社会の変化に柔軟に対応し、専門職として周囲と関わりながら積極的に声をかけ、良好なコミュニケーションを大切にしてほしいという内容でした。



◎先輩事務職員講話 3 部会学校事務センター 可美中学校 鈴木真理所長

教育委員会での経験を基に「伝える力」についてお話をいただきました。伝える際には、目的を明確にし、十分な情報収集と準備が必要であること。情報量が伝える力や説得力、熱意に直結すること。「これくらいでいいや」は失敗のもとという教訓も印象的でした。



◎グループワーク

- ・ 講話を受けて話し合い
- ・ D X 化に関する情報交換

事務職員としてのやりがいや再認識することができました。職場での人との関わり方や今後活用できそうな D X 化のヒントについて話し合いをすることができました。

4 部会



◎ 顧問校長講話 積志小学校 河合信寿校長

校長として学校事務職員に期待することをテーマに学校事務職員の標準的な職務を基にお話をいただきました。「グランドデザインとのリンクや、子供たちへの還元、持続可能性を踏まえ、客観的な視点を持った提言をしてほしい。学校運営参画に携わることは、事務職員の職務であり、特権である。」との言葉が特に印象的でした。



◎ 「浜松市教職員ポータルサイトで学ぶ」 講師 大瀬小学校 菊地 寛教諭



Google ドライブ、Classroom、Meet 機能などの基礎知識や使い方を学びました。中でもチャット機能の紹介や、Google レンズを使って簡単に文字入力をする方法には会場から感嘆の声が上がりました。講義の内容を生かし、研修後の質疑の集約はチャット機能を使用しました。タブレットを活用することでここまで多彩なことができるのかと、驚くとともに大きな学びを得ました。

5 部会



◎顧問校長挨拶 北浜東小学校 中島利美校長

「電話対応や来客対応などで学校の印象は変わる。学校の最前線の役割を担っていただいている。はままつ型学校事務によって適正に処理できるよう、安心して進めていけるよう願っている。」とお話をいただきました。



◎グループ協議

年度末・年度当初の事務処理等での困りごとや課題について、次の三つを取り上げてグループ協議を行いました。

- ①共済・互助組合の異動処理
- ②文書管理
- ③T-port 導入後の文書受付状況

それぞれのグループから、分かりやすく伝えるために工夫した点や課題など、今後の職務に活かせる意見が出され、有意義な時間となりました。



◎指導・講評 中瀬小学校 櫻井伸夫教頭

「今年度はT-port が導入された。様々な課題がある中で、使い方を共通理解しながら進められるとよい。」とお話をいただきました。

取り巻く環境の変化により、私たち学校事務職員も様々な変化が求められています。情報を巧みに共有し合って、柔軟に対応していくことが大切だということを学びました。

6 部会



◎顧問校長講話 大平台小学校 安藤靖之校長

「心理的安全性の高い職員室のために学校事務職員としてできること」について、お話をいただきました。

安心して意見やアイデアを出し合える関係を作るために、職員とのコミュニケーションを密にすることが重要であり、そのためには、①職員からの質問や相談を歓迎する姿勢を意図的に見せること。②ポジティブな言葉掛けをすること。③誰にでも得意不得意があることを理解した上で、相手を認めていくことが大切であるとの御講話をいただき、大変参考になりました。



◎グループ協議 「心理的安全性の高い職場づくりについて、市費の予算の話し合いの場面をもとに考えよう」



市費の予算要求書の作成を依頼する場面を中心に、教員の気持ちや言いたいこと、困っていることは何か、また、事務職員としてどのような言葉掛けや支援をしたらよいかについて話し合いました。教員とのよりよいコミュニケーションに向け、「相手に寄り添った言葉掛けをする」「子供たちのためという視点を共有する」「日常の会話の中から情報を得る」などの意見があがり、活発な話し合いをすることができました。

7 部会



◎顧問校長講話 豊岡小学校 泉澤伸広校長



「中教審の答申にもあるように、校務運営に参画する機会を一層拡大し、主体的・積極的に財務・総務等に通じる専門職としての専門性を発揮してほしい。学校事務職員は、教育支援におけるトータルプロデューサーとして、教員とは異なる目線をもって、学校の課題を解決すべく管理職に提案していくことを期待している」とお話をいただきました。

◎部会代表者講話 細江中学校 下位智恵美主幹

「学校は子供たちのため、色々な思いがある場所である。学校事務職員として、その思いをくみ取りながら、財務面や法務面等、事務職員ならではの視点を持ち、前向きな提案ができる力を持ちたい。事務職員も子供たちの成長の場をよりよくするための夢をもって欲しい。前向きに行動する中での経験や学びが仕事への自信ややりがいを高め、事務職員の専門性の向上につながっていく」とお話をいただきました。

◎グループ協議

まず、学校事務職員の専門性について考えました。自身の強み（個性）や日ごろ、事務職員ならではの視点で実践していること、これから取り組みたいこと等を絡めながら、専門性についてグループで話し合いました。付箋を活用し視覚化して情報を共有しながらの協議を行い、活発な意見交換の場となりました。

次に、身近な社会の変化ということで、T-port、学校徴収金の各校の運用状況についてグループで情報を伝え合い、改善点等についても共有が出来ました。日々の業務につなげていきたいと思えます。



◎指導講評 三方原中学校 足立成寿校長

「T-port については今後機能していくとペーパーレス等プラスの面も出てくるが、そこに至るまでの改善や整備等、事務職員からも知恵を出し合い、解決していった欲しい。また、現状の学校規模に合わせた学校徴収金の運用を進めていることは、それぞれが専門性を活かし業務にあたっていることである。なぜ事務職員になったのか、原点を振り返り、今後の職務に邁進していきましょう」とお話をいただきました。

8 部会



◎顧問校長講話 二俣小学校 大石浩史校長



最初に日々の業務に対するお礼と、時期によって業務量に偏りのある中で、健康管理に努めてほしいとお気持ちをいただきました。

また、この後のグループ協議の内容を踏まえ、話の内容を考える大変さ・対象を考えて伝える大変さについてお話をいただきました。児童間のラインでのトラブルを例に、発信前に読み返してみる、言葉選びに気を付けるなど、正しく・誤解なく伝え、相手に不快感を与えない大切さについて教えていただきました。

◎学校事務センター所長講話 二俣小学校 鈴木雅美主幹

様々な人とかがかわることが多い事務職員だからこそ、いろんなケースを想定して伝える工夫をグループ協議の中で共有してほしいというお話でした。



◎グループ協議



「伝える力」を部会のテーマに、情報発信で気を付けていることや工夫点、困り感などを協議しました。

複数の媒体や図の活用、個別の声掛けなど「伝え方」だけではなく、まずは自身が情報をしっかり理解するなど事前準備についても意見がありました。すぐ実践できる方法も多く、今後の自校でも参考にできる内容でした。

